



おいしい米づくり情報

2025/03/13

第1号 種子予措編

庄内総合支庁 農業技術普及課

Tel. 0235-64-2103

健苗育成は高品質・良食味・安定生産の第一歩！

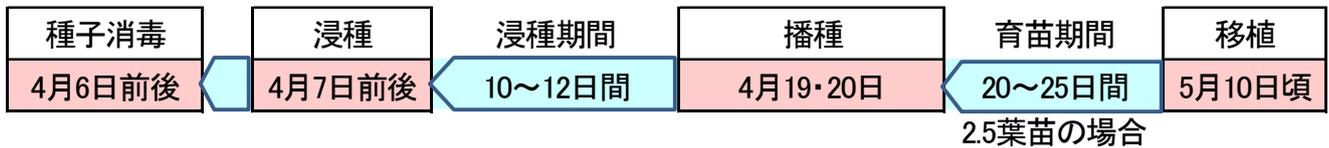
○老化苗防止に向けた適正育苗期間の確保

○適切な浸種水温と適切な催芽時間・温度で催芽の揃いを確保

☑移植日から逆算して作業計画を立てましょう

高品質・良食味生産のための移植適期は 5月10日頃です。移植が遅くなると初期生育の確保が難しくなり、収量が低下する場合があります。移植日から逆算して育苗の計画を立てましょう。

※移植日から逆算した育苗計画の一例



☑薬剤消毒時は使用方法を確認

- 1 薬剤の種類で対象病害虫や処理方法が異なります。希釈倍率や処理時間等を必ず確認しましょう。
- 2 薬液の温度が低すぎると効果が低下するので、処理時の水温は 10℃以上を確保しましょう。
- 3 薬液に浸漬したら必ず籾袋をゆすり、薬液を籾袋の内部まで十分浸透させましょう。

※ 薬剤消毒の一例

使用薬剤	テクリードCフロアブル
処理時間	24時間
希釈倍率	200倍
種子の量	乾籾10kg
水量・薬剂量	薬剤100ml+水20ℓ

プロクロラズ剤(スポルタック剤)の「ばか苗病」耐性菌が確認されているので、注意しましょう。

☑温湯消毒時の留意点

- 1 温湯消毒は、「58℃ 20分」または「60℃ 15分」です。(ただし、使用する温湯消毒機の説明書に記載ある温度・時間に従ってください。)
- 2 浸種直後、水面上に種子袋を 5 回ほど上げ下げし、種子袋の中心部まで温湯を浸透させましょう。また、温湯消毒後はただちに冷却し、そのまま浸種します。

☑浸種のポイントは適正水温の確保

- 1 浸種中の適正水温は 10~15℃です。浸種初日の水温が低いと発芽率が低下するおそれがあるので、浸種初日は必ず水温 10℃以上を確保しましょう。
- 2 水温 15℃を超えるとばか苗病が発生しやすくなります。浸種桶に直射日光が当たらないようにするなど、置き場所・置き方には十分注意しましょう。

品種	積算気温	浸漬日数	
		水温10℃	水温12℃
はえぬき、つや姫、雪若丸 ひとめぼれ、コシヒカリ	120℃	12日間	10日間

気温が急上昇する日があります。そのような時は水温管理に特に注意しましょう。

3 新鮮な酸素を供給するために必ず水交換を行いましょ。また水交換の際は吸水ムラを防ぐため種子袋の配置を替えましょ。

・必ず温度計を設置し、水温確認!

・浸種初日は 10℃以上

・浸種中は 10℃～15℃

・長期間の浸種は、ばか苗病発生リスク高めるので避ける

・桶は日陰や屋内に置く

・菌の飛び込みを防ぐため浸種桶にはフタをする

薬剤消毒した場合は防除効果を安定させるため、浸種開始3日間は水交換をしない

・水量は乾粃 10kg に 30ℓ以上

・水交換 2～3 日に 1 回

☑催芽はハト胸状態を確認

種子の催芽は30～32℃のたっぷりの温湯に袋全体を浸し、通常うるち品種では20時間程度を目安に、ハト胸状態となったことを確認し引き上げます。

なお、令和6年産種子の催芽調査では、令和5年産種子に比べると催芽揃いまでの時間はやや短い状況です。催芽途中で芽切れの状況を確認し、芽の伸びすぎにも注意ましょ。

☑播種日・播種量を確認

播種日は、移植日から逆算して設定ましょ。播種が早すぎると、移植するまでに苗の老化が進み、活着が劣ることになるので、注意ましょ。播種量は、稚苗では乾粃で箱当たり150～180gを目安に播種ましょ(右表参照)。

	移植時の葉齢	育苗日数	乾粃重(g)	催芽粃重(g)
稚苗	2.2～2.5	20～25	150～180	190～230
中苗	3.2～3.5	30～35	80～120	100～150

※ 雪若丸は粒が大きいので、適切な播種粒数とするために、播種量を1割程度増やましょ。

☑基本的なばか苗病対策

- 1 生粃殻、ワラなどは伝染源になるので育苗資材に使用しない
- 2 適切な種子消毒(処理濃度、温度、時間)の徹底
- 3 浸種温度は15℃以上にしない
- 4 催芽機、育苗箱の洗浄・消毒の徹底(→種子消毒後の感染防止)



重要

高密度播種の注意点

高密度播種(乾粃250～300g程度/箱)を行う方が増えていますが、健苗に育てるために、次の点に十分注意ましょ。

- ①葉数 2.2 枚程度(育苗期間 20 日程度)で移植できるように、計画的に播種ましょ。
- ②厚播きなので苗は生育停滞または徒長・老化しやすくなります。ハウス内・トンネル内の高温は徒長・老化を早めるので、温度管理には十分注意。
- ③吸水量・蒸散量が多くなります。灌水は箱の底まで浸みるようにタツプリ(朝1回)。
- ④育苗日数が長引く場合は、苗の老化や移植後の生育停滞を防ぐために、移植 5～3 日前に箱当たり窒素成分 1g 程度追肥ましょ。

まもなく春作業開始。農業機械事故を防ぎましょ!